（第三種郵便物認可）　報知新聞　2021年（令和3年）5月15日（土曜日）　スポーツ報知

八幡南V

第30回ゼット旗争奪福岡大会【中学生の部】

（3～5日・県営筑豊緑地野球場ほか）

中学生の部は54チームが出場し新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して開催された。決勝は八幡南ボーイズ（北九州）が福岡西南ボーイズ（福岡南）を9－1の5回コールドで破り、3年ぶり3回目の優勝を飾った。（弓削　大輔）

※上位以外のチーム記事は後日掲載予定

3年ぶりの優勝を飾った八幡南ナイン

▼中学生の部決勝

福岡西南	1	0	0		0	0				1
八幡南	1	2	0		6	X				9

【西】吉田旭、林、松隈―右田【八】藤井、塚本―西村▽二塁打＝農坂（八）

農坂猛打賞

後ろにつなぐことだけを考えた。八幡南は11安打9得点で快勝。初回に3連打で同点。2回に2点を加え、4回は5連打を含む単打6本で6点を入れた。

古賀涼太主将は「大きいの1本よりもファーストストライクからどんどん狙った」。長打は1本だけ。同じく2桁安打で9得点だった準決勝も長打2本。内野の間を抜く打球にこだわり、単打で〝線〟を作った。

農坂大河は3打数3安打。元々は9番だが好調さを買われて6戦全て2番で出場した。また二塁の守備でも軽快な動きを見せ、攻守に貢献。「打撃では来た球に、守備では打球にうまく反応できた」と喜んだ。

過密日程も

3日間で6試合のハードなトーナメント。戦い抜くには打ち勝つ力に加え、投手の数が求められた。故障者もいて投手陣万全と言えない中、貴重な働きをしたのが藤井晴琉だ。3回戦で強力打線の福岡を7回1失点に抑えると、決勝は3回1失点でゲームを作った。

本職は中堅手で公式戦の登板は昨年9月以来、7か月ぶり。春季全国大会の前に一度は投手失格を告げられていたがよみがえった。「3回戦はカーブが使えてコースにしっかり投げられた。決勝は点を取られた後でもコントロールが良く、打たせて取ることができた」と胸を張った。

課題も克服

優勝という結果だけでなく、春季全国大会からの課題だった打力強化の成果が出たこと、さらに塚本空輝、安田創磨以外の投手の台頭と内容も充実した3日間。徳野晴美監督は「打線がつながって点が取れたし、凡ミスのエラーも少なかった。藤井は重要な場面で投げるのは初めて。2勝した吉原（渚）も頑張ってくれた」と声を弾ませた。

藤井7か月ぶり公式戦で奮投

▼▼決勝で3回1失点の藤井晴琉

つなぐ打線で11安打9得点

決勝の4回2死一、三塁、右前適時打を放つ農坂大河